

表紙の説明

紅葉と残雪のトムラウシ

市田 信行 陸自77

現役時代、勤務した地域の主要な山々には必ず登ることにしていました。仕事の役に立つかもしれないという打算的な動機と合わせて、その山々に住む地域の神々を肌で感じたいと思っていたからです。

帯広で勤務した時、最も登りたいと思っていた山の一つがトムラウシでした。北海道の大雪山、十勝連峰の最深部に位置して、標高2141m、どこから登っても10数時間の歩行を強いられる山です。

トムラウシは数万年前の火山活動で標高1800m付近に広大な溶岩台地が形成され、その上に溶岩ドームの山頂が付加されました。溶岩台地には、雪が解ける夏の短い期間だけ、大小の沼、湿原、お花畑が現れます。そのため、神々の遊ぶ庭と崇められてきましたが、同時に多くの遭難者を発生させる魔物が住む山でもありました。

登山は延期が続き9月下旬になつてしまいました。すでに初雪の季節です。その日、出発から6時間後、前トム平と呼ばれる溶岩台地の先端部まで登った時、ようやく視界が開けて、青い秋空の下、赤、橙、緑の高山植物と白い残雪をまとった神々の遊ぶ庭が見えてきました。